



誰もが芸術を理解しようとする。

ならば、なぜ鳥の声を

理解しようとはしないのか。

人が、夜や花を、

そして自分を取り巻く全てのものを、

理解しようとしなくて

愛せるのはなぜだろうか。

なぜか芸術に限って、

人は理解したがるのだ。

子供は誰でも芸術家だ。

問題は、大人になっても

芸術家でいられるかどうかだ。

－ パブロ・ピカソ －

「美」とは何か 1学期学年末テスト3組より

●美とは、日々人間が作り出す「思考」そのものだと思う。その素晴らしい思考を基に作品を創り、人々の心を動かす。また、作品を創り出す過程も興味深い「美」となるのではない。作品が完成するまでの努力や苦労、すなわち思考（試行錯誤）が必ずある。～中略～失敗作や努力の魂が1つの作品にまとめられている。作品はもちろん美しいが、その中身「親」ともいえる部分の方が美しいのではない。眩しすぎる宝石（思考）に綺麗な布をかぶせているように感じる。

一方、美術とは、人間の歴史であり、自分なりの美を表現するための階段・土台である。人々は歴史（階段・土台）から「美」というものを考え、とんでもない思考を作品として創造していくのである。

3組 大瀧 祐弥

●美術とは、人々が表現することができない抽象的なことを相手に伝えるように、目で見えてわかるようにしたものだと考える。時代によって様々な特色があり、その時代に活躍した画家たちがいる。今、その時代を生きている画家たちは、自分が感じていることを表現するために、様々なアイデアをだし、行動に移し、人々に感動を与えた。そんな画家が、その時代の代表的な画家と言われるようになる。

抽象絵画もまた、様々な視点から見てほしいという画家の意図が込められていると思う。美術（画家）とは、抽象的なことを具体的に相手に伝えるように目で見えてわかるようにしていくものだと私は考える。

3組 廣田 伊規

●私が考える美とは、「人間の本能的なもの」と、「その時代文化によって影響されてきたもの」との融合体だ。人間の本能的なものとは、例えば黄金比。黄金比は、大昔から良いとされ、現代でも日常的に良いバランスとを感じるものは、だいたい黄金比らしい。

そして、時代文化の影響されてきた、いわばトレンドも、その時代時代で美しいとされてきたものだ。室町文化と現代文化では全く美の基準は違うし、1980年代と2020年代の文化芸能も全く違う、それはトレンドが違うからだ。

このように、人間の本能的なもの、その時代で影響されながらできたものとの融合により美が成立するのだと私は考える。

3組 奥平 駿

●美というのは、人によって感じ方が違うから規定できないけど、私が思う「美」は、パッと見たときに「引き込まれるもの」です。分析して、解説を聞いて時間をかけて美しいと理解するのではなく、1秒もかからず直観で感じたものが「それぞれが思う本当の美」だと考えます。

さらに、見慣れたものは、引き込まれにくいと思う。例えば、町を歩いても見慣れた街並みを美しいと思うことはない。でも海外など知らない街並みを観たとき、きっと美しさと感じます。それが、西洋伝統絵画の崩壊につながったと考えています。見慣れた伝統的な絵画より、画家が新しいものを無意識に追い求めるようになったのではないのでしょうか。

3組 佐古亜沙美

●私は、美が自分の内にある思いを伝えるものだと思います。どの時代であっても政治的な戦争の絵画、逆に政治に社会に反発する抗議的な絵画なども多くあります。このように画家たちが、自らの意志表現を絵画で示したのは、文字とは違う絵の持つ特徴にあるからです。絵には視覚的に瞬時に沢山の情報が伝えられます。なので文字が書けない人も含め、誰でもが一瞬で思いが伝わるという点から美術が始まりました。今でも自分の内なる美や思いを描き伝え、その流れの中で抽象的なものが残されていったと思います。

3組 金銅 寧里

◆ラスコーの壁画・システィーナ礼拝堂・ゲルニカなどなど・・・ 明日は最終回